

第 38 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：平成 28 年 7 月 22 日（金）16 時 30 分～18 時 30 分

会場：東北大学災害科学国際研究所 1 階 多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：「防災における学際連携・産官学連携」

1. 16:30-16:50 （発表 20 分）

タイトル：「災害時における電気自動車の可能性について」

話題提供者: **柴山 明寛** (情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野)

2015 年 11 月 26 日に災害科学国際研究所棟において、宮城県沖での地震およびそれに伴う津波の発生を想定した災害対応訓練を実施した。本訓練は、電気等の既設ライフラインが途絶し、所内の非常用電源がメンテナンス等により使用不可能な状況にあった場合に代替の電源供給機器を使用することで、研究所の初動対応や情報の収集・被害規模の推定等から被災地での緊急調査まで継続して実施可能かを検証した。発表では、訓練概要と結果について報告する。

2. 16:50-17:10 （発表 20 分）

タイトル：「東北地方の各県における官民災害協定の拡充に関する分析」

話題提供者: **寅屋敷 哲也** (人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

東北地方の各県、新潟県、静岡県及び仙台市を対象として、官と民の災害協定の締結状況の把握を行い、震災の教訓との対応関係の分析から、今後の協定拡充の方向性を考察した。本研究は、東北が抱える課題解決のための産官学民連携の場として 2014 年 3 月に設立された「東北復興連合会議」において、参加県及び仙台市に対して、災害協定の実情の情報共有を支援するという目的から進めることとなった。

3. 17:10-17:30 （発表 20 分）

タイトル：「東京海上グループ-東北大学の産学連携による活動報告 ～これまでの活動と今後に向けて～」

話題提供者: **林 晃大** (地震津波リスク評価 (東京海上日動) 寄附研究部門)

向井 有我 (東京海上日動火災保険株式会社)

2011 年 8 月に産学連携協力協定を締結して以降、東北大学における地震津波リスク評価等の災害科学の知見・データ等と、東京海上グループがこれまで保険ビジネスで培った地震・津波リスクに対する知見・データ等を元に、両者が連携協力して同分野の研究開発や人材育成、および社会への情報発信を実施してきた。災害リスク低減、そしてその先にある安心・安全な社会の構築に向けて行ってきた、これまでの東京海上グループ-東北大学による連携研究・活動を踏まえて、東京海上グループが産学連携を通じて得た知見や、寄附研究部門にて現在取り組んでいる研究・活動内容、および今後の展望について紹介する。

4. 17:30-17:50 （発表 20 分）

タイトル：「産官学連携研究の場づくりと留意点について」

話題提供者: **丸谷 浩明** (人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

産官学連携においては、民間主体、行政それぞれの期待、立場、要求傾向、優位性、制約などを理解し、また、学の特長についても理解を得て、相互にメリットを生み出せるよう取り組むことが、連携進化には必要である。災害科学国際研究所や発表者個人が参画する産官学連携のいくつかの場や機会を例としながら、研究協力、さらには連携行事の実施、人材育成等のため大学からどうアプローチするのが有効かについて議論する。

5. 17:50-18:20 （質疑応答/総合討論 30 分）

6. 18:20-18:30 事務連絡など

司会・進行：丸谷 浩明 (人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)